

中渡島潮流信号所 103年の歴史に幕

今治海上保安部では3月26日来島海峡の潮流信号システムが新しいシステムに移行することに伴い、同日付けで廃止となる中渡島潮流信号所の103年にわたる潮流信号業務の労をねぎらうため、「百年間ありがとう」の横断幕を潮流信号所の航路側フェンスに掲げました。中渡島潮流信号所は関門海峡の潮流信号所と時を同じくして明治42年（1909年）8月15日に業務を開始しました。昼間は腕木式の形象信号、夜間は灯火による信号で潮流の流向を表示しました。この方式は今日まで変わることなく続き、特に腕木式の潮流信号機は、我が国唯一で最後の潮流信号機となりました。来島海峡航路は世界で唯一潮流の流向により航行すべき水道が変わる、いわゆる順中逆西（順潮時は中水道を逆潮時は西水道を）の航法が海上交通安全法により定められています。中渡島潮流信号所は同施行規則でその流向を示す信号所の1つと規定され、来島海峡航路の航行安全に長い間大いに寄与してきました。

ほんとうに百年間ご苦労さまでした

廃止後は103年の時を越えて中渡島灯台として復活します。また腕木式潮流信号機は移転・保存される予定です。



中水道から見た中渡島潮流信号所



腕木式潮流信号機